

## 第5回 魚津市総合計画審議会 議事概要

【日 時】 令和7年11月6日（木） 午後7時00分から午後8時45分

【場 所】 魚津市役所2階 第1会議室

【出席者】 委 員 17名 前澤会長、秋本委員、朝野委員、大澤（千）委員、  
大澤（ま）委員、柿本委員、河村委員、近藤委員、島津委員、  
末上委員、中野委員、野村委員、濱元委員、廣瀬委員、  
山本委員、横田委員、若林委員

（欠席：中村委員、平野委員、佐々木委員、武隈委員）

市当局 12名 村椿市長、石黒副市長、山瀬教育長、江田企画部長、  
宮崎総務部長、窪田民生部長、赤坂産業建設部長、  
田中教育委員会事務局長、矢野上下水道局次長、  
木村企画部次長

（事務局）林企画係長、山内主任

19：00 開会

**事務局** 開会前に配布資料の確認をさせていただく。

（資料の確認）

定刻となったため「第5回魚津市総合計画審議会」を開会する。本日は2名の委員より欠席の連絡をいただいている。開会にあたって、会長から挨拶をいただく。

**会 長** 会長を仰せつかった前澤である。審議会も第5回を迎えた。これまでの議論を振り返ると、人口減少にどう立ち向かうか、どう緩和し、対応していくかが大きな議題かと思う。個人的な考えだが、人口減少はもしかすると現代の流れにはあっていてそこまで悪いものではないかもしれないとも考える。AI やデジタル技術が進歩を遂げる中で、人口増加の局面では国内で失業問題や社会不安もあったのではとも考える。減り過ぎることも良くないので緩和することは必要だが、現在のデジタル技術の進展をうまく組み合わせれば、一人ひとりの能力を拡張して、それによって対応していけるのではと考えているところ。この計画は非常に重要なものなので、本日も闊達なご議論をよろしく願います。

**事務局** 続いて、村椿市長から挨拶を申し上げる。

**市 長** 日頃から市政にご協力をいただき、重ねて御礼申し上げます。本審議会は本市にとって非常に重要な節目となる。一つ目としては第5次の基本構想の案について、会長より答申をいただく審議会となる。基本構想は人口ビジョンを含む内容である。人口の問題は会長のお話にあった通り、人口減を避けることはできない。これまで高い目標を見据えていたが現実的には難しい。その目標を柔軟にし、緩和策を講じて現実を受け入れた対策をしていく方向としている。本日はその意味で重要な会になろうかと思う。

二点目として、新しい基本構想に基づいた令和8年度からの後期基本計画について、皆様  
に審議をお願いする機会となる。後ほど皆様に説明があると思うが、後期基本計画は、改訂  
後の基本構想に掲げている将来像をどのように実現していくかの道筋を示す計画である。  
非常に重要なものであるため、皆様には幅広い見地から闊達なご議論をいただきたい。本日は  
遅い時間まで長時間となるが、皆様の熱い議論をお願いして挨拶に代えさせていただきます。

**事務局** では、ここからの議事進行については前澤会長にお願いする。

**会 長** 議事に入る前に審議会の流れを確認する。前回8月19日に行った第4回審議会では  
人口ビジョンの改訂を踏まえ、第5次基本構想における将来人口についても修正を行い、  
人口減少が継続する事態を正面から受け止めて今後様々な施策を行う方針について、大筋  
で了解をいただいた。その後、パブリックコメントに臨まれたところ。今回の審議会では基本  
構想（案）の確認と、答申文の調整を行った後に、基本構想案の答申を予定している。あ  
わせて、後期基本計画（案）の協議も行いたい。

時間は限られているが本日も委員の皆様におかれましては活発なご発言をお願いする。  
これまで同様、新しく示された内容を中心に事務局から説明していただきたい。それでは、  
議題1. 第5次魚津市総合計画基本構想（案）について、事務局より説明をお願いします。

**事務局** （説明）  
第5次魚津市総合計画 基本構想（案）について

**会 長** 説明いただいた資料1、2についてご意見を伺いたい。今回大きな修正はないとの  
こと。本日の説明事項へのご意見だけでなく、今後の計画策定に関するご意見でも良いので、  
ご意見のある方は挙手をお願いします。

私から質問。9ページの基金残高の推移をみると、平成28年度から平成30年度まで、財  
源不足のため減少ということで減っているが、一般会計の歳入・歳出の推移のグラフをみる  
と歳出より歳入が多い。この部分は何故減っているのか。

**総務部長** 歳入歳出のグラフは、決算なので歳入が歳出を上回っていないと、当然、赤字と  
いうことになる。財政調整基金である、いわゆる貯金を取り崩しながら歳入を確保して黒字  
という形をとっている。その一方で、実際には財源不足がこの当時は深刻だった。貯金を崩  
した為に、残高の推移が右肩下がりになっている。貯金を取り崩しながらなんとかやりくり  
していた様子がこのグラフ。

**会 長** 一般会計の歳入には基金残高から取り崩したのも常に入れていと理解した。  
一方で健全化により回復しているときにはどうなっているのか。歳出に基金残高を移して  
いることになるか。

**総務部長** 基金残高が少ないと財政のやりくりが厳しくなるので、財政健全化計画をたて  
て、歳出を抑制する取り組みを行った。人件費の抑制や、大型の事業を平準化、見直しなど  
をした。減りすぎた基金を積み増ししていくところで努力した結果として、グラフも右肩上

がりに転じたものとなっている。基金残高はおっしゃる通り、積立金としての歳出増に入っている。

**会長** これまで、アンケートの内容については次回変えてほしいという話があった。今回実施済の部分は変えようがないと思うが、高校生アンケートでの将来なりたい職業に関する意見等、次回以降に向けていただければと思っている。

**事務局** 次回以降に対応させていただきたい。

**A委員** 人口が減少していく中で労働人口も減る。外国人労働者も入ってくると思うが、それについては反対するものではない。ただ、文化の違いについては懸念がある。たとえばいやなことはいやという意味表示が当たり前の文化の国もあるが、日本人では言えない人もいる。日本のことが好きで自分の仕事を持って来た人達は日本の文化や生活を楽しむと思うが、稼ぐために来た人は自分の国の文化を主張することもあり、共存が難しい場合もあるかと思う。魚津に住んでいる人の声はどうかとも気になる。魚津市でも今後問題がない可能性もあるが、問題が発生するかもしれないということも心配。外国人を受け入れ過ぎたために問題が起こり、もともと魚津が好きだった人が泣く泣く出ていくような現象が起こってもよくない。そうした懸念点について市としてどう捉えているか。

**企画部長** 今日の国会でもおっしゃられたような議論がされていた。外国人は日本国内に400万人いると言われている。総人口の約3%。魚津市の現状は資料にある通り、最新では600名あまり。国全体で約3%なので、魚津市はそれより少ない2%弱。国の推計では2070年には総人口の1割以上が外国人になると出ている。この人口減少下において、労働力も含め、経済を維持していくときには外国人の方の力が必要なのだろうと思う。おっしゃられる懸念点はあると思うが、様々な国の文化を相互に理解して、共生していくことが大事だと思う。市としても、外国人が来られたら、魚津はこういうところだということを説明し、理解していただく必要があると思う。我々も国によって違う文化を理解していただけるような意識の醸成をしていく必要があるかと思う。

**A委員** どの行政も同じ課題を抱えており、相互理解ということはどこでも言われると思う。そこから踏み込んで、具体的にどういったことをしていくか。外国人労働者が多いけれど、今までの魚津市や日本の良いところが維持されて、多様性のあるまちになるように先んじて取り組んでいければ、他の市町村で住み心地が悪くなって出ていく人達を受け入れられる、安全をおびやかされないまちとして移住してこられるチャンスにもつながるのではないかと思う。

**会長** 非常に難しい問題だが、ご意見ありがとうございます。ほかにあるか。今までのところは前回までに議論したところなので、よろしいかと考える。

特にご意見もないようなので、今いただいたご意見を踏まえて今後の策定作業を進めていただきたい。続いて議題2. 第5次魚津市総合計画 基本構想答申について、私から提案させていただく。

(説明) 基本構想答申について (案)

答申の案について何かご意見等はあるか。よろしいか。修正を求める意見はないようなので、答申文案をもって答申を行いたい。

**事務局** それでは、基本構想改訂案の答申を、前澤会長から市長に行っていただく。  
(答申)

再度議事に戻っていただく。会長に進行をお願いする。

**会 長** 議題3. 第5次魚津市総合計画 後期基本計画 (案) について、事務局から説明をお願いします。

**事務局** (説明)  
第5次魚津市総合計画 後期基本計画 (案) について

**会 長** 説明のあった通り、前期計画になかった施策11が追加され、その他も成果指標などの修正や追加についてご説明いただいた。委員の皆様からご意見等あれば挙手を願う。

**B委員** 書きぶりについての意見。重点施策の④。デジタル技術の活用について追記されたご説明があった。施策11が新たに追加され、またデジタルは、すべての重点施策で共通してくる内容なので、もしも構成を変更できるのであれば、前段でデジタル技術について記載したうえで、重点施策を書いていくのが自然ではないかという印象を受けた。特に④はゼロカーボンシティの話も出ている。デジタルのことをどこかに入れたかったのかなという印象も受けるが、デジタルは全体にかかってくるようなので、よければ、そうした構成もご検討いただきたい。

**会 長** 事務局はいかがだろうか。

**企画部次長** ご意見として頂戴して検討させていただく。

**会 長** デジタルは横串のものになるかと思う。全体にかかるという意味で、検討いただければと思う。ほかにあるか。

同じくDXの推進に関して私から。人材の確保が難しいところがある。具体的にどう進めていくか、もう少し具体的な話を聞きたい。

**企画部長** 人材不足でそういった人材を確保できないのは、行政も民間も同様。そうした中で、現職員に色々な研修や勉強の機会を設けて少しずつスキルアップを図る。また、専門的な知識は全体として持っていないくとも、そうした分野に長けた職員をリーダーとして全体に波及していくという、地道なものになるかと思う。その辺りをしっかり進めていきたいと考えている。

**会長** 難しいが是非進めていただきたい。ほかにあるか。

**C委員** 施策が多くある中で、取り組める体制がとれるのか。これが企業の課題だったとしたら取り組むのは大変だなと感じるが。また、全体的に抽象的な部分も多い。意見として出させていただく。

**企画部次長** 体制をとれるかという部分については、令和8年度以降、しっかり取り組んでいきたいと考えている。抽象的な部分もあるという点については、各課題に対してそれぞれ対応していければと思う。

**企画部長** 抽象的というご指摘はごもっともかと思う。総合計画の場合、まず基本構想があり、その中の基本計画の部分に進めていく事業が羅列されているが、個別の具体的なものは実施計画というものを毎年策定していく。実施計画はここではお示ししていないが、ホームページには掲載しているので、そういったところでご確認いただけたらと思う。

**会長** ほかにあるか。

もう一点、考えていることについて述べる。学校教育の充実の、プログラミング教育の推進について。AIの進展によってプログラミング技術が、それ自体では仕事にならないという状況も出てきた。アメリカではプログラマーの求人が減っているという話。ある程度上級のプログラマーがAIを使えば若手のプログラマーは必要としない現状になりつつある。ただし私自身は、教育という意味ではプログラミングやアルゴリズムを勉強する事には意味があると思っている。そうした議論は文科省などで考えられていることだと思うが、AIが何をするものか、わかっている人とわかっていない人では、人としての行動が変わってくるかと思う。そういった意味でプログラミングやアルゴリズムを学ぶことは大事だろう。感想ではあるが、そのあたりも踏まえて検討を進めていただければと思う。

ほかにご意見はあるか。よろしいか。では議題3を以上とする。本日の議題は以上だが、何かご意見等あるか。それでは皆様の意見も出尽くしたようなので、事務局では十分に検討されて、次回に反映されるようお願いする。審議はここまでとする。

**事務局** これをもって本日は終了とさせていただきます。長時間にわたっての議論をありがとうございます。本日答申いただいた基本構想案は、今後12月の議会に提出して議決いただく予定。後半で審議いただいた基本計画案は皆様からいただいたご意見を反映し、最終案としてパブリックコメントに出し、市民の皆様からのご意見を頂戴する。11月20日から一か月程度の予定。これで本日の会議は終了とする。

20：45 閉会